

公立大学法人福岡女子大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡女子大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡女子大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命としている。

令和5年度で6年間の第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）が終了したことに伴い、当該中期目標期間における中期目標の達成状況の調査・分析を行い、これらの結果を考慮して当該中期目標の期間における業務の実績の全体について総合的な評定をして、認証評価機関による評価結果も踏まえ、評価を行った。

評価の結果、中期目標項目6項目中2項目（教育、地域貢献及び国際交流）について「達成状況が非常に優れている」、4項目（研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「達成状況が良好である」と評定した。

福岡女子大学は、クォーター制への移行に伴い文理統合科目やリーダーシップ開発系科目など特色あるカリキュラムを導入した。また、教育の場としての寮活動の充実、感性教育の実施、女性のキャリア形成のための教育プログラム等、様々なリーダーシップ育成のための教育を実施している。第3期中期目標期間中は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けたが、遠隔授業も柔軟に組み合わせることで学生の学修機会を確保し、また感染拡大防止対策を行ったうえで全寮制教育を維持するとともに、海外大学との行き来が制限される中、オンラインによる教職員及び学生の国際交流を推進するなど、教育研究の維持向上に取り組んだ。

特に、平成30年度のクォーター制導入直後から、教職協働の学内プロジェクト組織も活用して教育効果等を検証・改善し、次代の女性リーダー育成のためのカリキュラム改定を実現した点や、社会人女性のための高品質のキャリアアップ・プログラムを実施し成果をあげた点はきわめて優れている。

また、令和4年度に受審した認証評価においては、「福岡女子大学の教育研究等の総合的な状況は、大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準に適合している」と評価されている。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の中期目標期間の業務実績評価については、全体としては達成状況が良好であると

認められる。

グローバル化の進展に伴い、社会経済の状況が大きく変化する中、活力ある地域社会を築き、持続的に成長、発展していくためには、国際的な感覚や幅広い視野に加え、様々な主体の力を結び付けて協働することができる女性リーダーの育成が求められている。

18歳人口が減少する中、公立大学は一層の責任感を持って地域社会の発展に貢献できる人材の育成に取り組む必要がある。令和6年度からの第4期中期目標期間においては、公立大学法人福岡女子大学が、理事長のリーダーシップの下、内部質保証体制を強化し、国際貢献、感性教育、文理統合教育などの特色ある取組の更なる実質化・高度化を実現することで、次代の女性リーダーを育成し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-----------------------

教育については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や充実した教育を推進するための積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

(1) 学士課程

- ・平成30年度からクォーター制を導入し、教育効果を学生アンケートやファカルティ・ディベロップメント（FD）等により検証し、改善するとともに、幅広い学びを提供するための文理統合科目や、大学の教育理念を具現化するためのリーダーシップ開発系科目を重視した新たなカリキュラム（令和4年度入学生から適用）を完成させた。
- ・学術英語プログラムや課外補習講座を充実させ、学生の総合的な英語力を向上させるとともに、英語教育を「学術・キャリア英語プログラム」に再構築し、2年間の英語集中学習と専門教育を連動させる教育を導入した。
- ・女性リーダー育成教育を推進するため、カリキュラムにおける女性リーダー育成関連科目を充実させるとともに、学内委員会に学生を参加させ、自らのリーダーシップへの気づきを促し、その成長を発信する機会を設けた。
- ・国際性豊かな学習環境を充実させるため、交換留学、語学研修、体験学習等、学生の海外派遣や留学生の受入れに力を入れるとともに、コロナ禍においても協定校等が実施するオンライン研修やセミナーに多くの学生を参加させた。
- ・食・健康学科において、専門教育を充実させるとともに、管理栄養士国家試験の合格率100%を維持した。
- ・県庁舎内にある県民レストランのヘルシーメニューの開発・提供に、食・健康学科の学生を参画させるなど、大学で学んだ知識を発揮する機会を設けて、学生の学びに繋がった。

(2) 大学院課程

- ・専門的能力を養成するため、人文社会科学研究科及び人間環境科学研究科の教育研究を充実させるとともに、学位論文審査における評価システムを見直した。

(3) 教育活動の活性化

- ・全職員参加型のFDに加え、各部署における自発的なFDを推進するとともに、学修ポートフォリオの改善を進めた。

(4) 意欲ある学生の確保

- ・海外協定高校からの学生の受入れ、高校単位でのキャンパスビジットなど、工夫した募集広報活動を行うとともに、コロナ禍においても人数等を限定した来校型オープンキャンパスやオンラインによる高校教員向けの大学概要説明会を実施した。

(5) 学修支援・学生生活支援

- ・学修ポートフォリオを改修し、積極的活用を促すとともに、ラーニングコモンズにおいて学生主体の学習イベント等を多数開催したほか、教職員が連携して学生のメンタルヘルスケア支援や学修支援を行った。

(6) キャリア形成の支援

- ・キャリア教育をカリキュラムにおける「リーダーシップ開発系」に位置付けたほか、キャリア支援部会を設置するなど、教職協働による就職支援体制を整備した。

2 研究

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

研究については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「女性リーダーシップセンター」及び「国際フードスタディセンター」を設立し、大学の知的資源を活用して、男女共同参画、健康社会づくりなど社会的な重要課題に対応する研究をはじめとした総合的な取組を開始した。
- ・国際的な研究交流を推進するため、「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」の枠組みを活用した研究交流を推進するとともに、コンソーシアム外の大学との共同研究も実現させた。

3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-----------------------

地域貢献及び国際交流については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や地域貢献に関する積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 社会人女性のキャリア支援のための「女性トップリーダー育成研修」や「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」、「女性人材育成のためのネットワーク形成事業」、再就職支援のための「女性のためのウェルカムバック支援プログラム」を実施し、社会人教育を充実させるとともに、地域社会との連携を推進した。
- ・ 出前講義やイングリッシュ・キャンプ等の高校との教育連携の推進や、生涯学習カレッジの開講、地域コミュニティとの連携事業等を実施するとともに、福岡女子大学美術館や図書館で様々な企画展を行うなど、大学の知的資源を地域に還元した。
- ・ 海外11大学との新たな交流協定の締結等、海外大学との交流を充実させるとともに、留学説明会や留学経験者による相談会等により、在校生の海外志向を高め、留学生の短期受入れ、学生の海外派遣に繋げた。コロナ禍においてもリスクマネジメントを行うとともに、オンラインを活用した交流プログラムを実施した。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

業務運営の改善及び効率化については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 大学の円滑な運営の実現や多様なニーズに対応するため、教職協働組織（センター）への再編や、教員対象研修会への職員の積極

的参加等、教職協働の観点からの取組を強化したほか、トランスジェンダー学生受入れに関する検討委員会を設置して検討を進めるとともに、学生や教職員の理解を促進するため、研修会を実施した。

- ・教職員の多様な視点によるユニークな提案を募集する「教育活動活性化提案事業」を実施した。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

財務内容の改善については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・教員に対する外部資金獲得セミナーの開催や科研費獲得者によるピア・レビュー等、外部資金獲得のための支援を行い、一定の収入実績をあげた。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・自己点検・評価委員会を中心に内部質保証体制を整備した。
- ・大学ホームページ等により教育研究情報を適切に公開したほか、大学紹介動画やブログの掲載、広報誌での新企画等、高校生を意識した広報を実施するとともに、マスコミや企業へも積極的にアピールするなど、大学ブランドの浸透に力を入れた。また、100周年のプレイベントや100周年を素材とした広報誌を作成した。